

搾乳機器の洗浄と殺菌について

(1) 生乳は生菌の格好の住み家

生乳は栄養分が豊富に含まれているため、細菌が増殖しやすい性質を持っています。

生乳中の生菌数は、輸送中の増殖を防ぐため、一万 μm^3 以下とするこ

(2) 生菌数の推移

管内および各受入箇所での生菌数は一昨年より悪化しています。また、全道水準を下回る月が多く、月別変動が著しいのが特徴です(図)

(3) 生菌を増殖させないために

乳房炎乳や牛体の汚れ混入、搾乳機器の洗浄不良等によって、生菌は増殖します。搾乳機器の洗浄殺菌は、生菌を増殖させないための大切な作業です。

クロー内部のように、汚れの付着しやすい部分は定期的に分解清掃を行いましょう(写真)。ライナーホース等は、推奨される時期に必ず交換します。また、ボイラの給

湯能力が低下している場合もあるので、湯温が適正に調整されてい

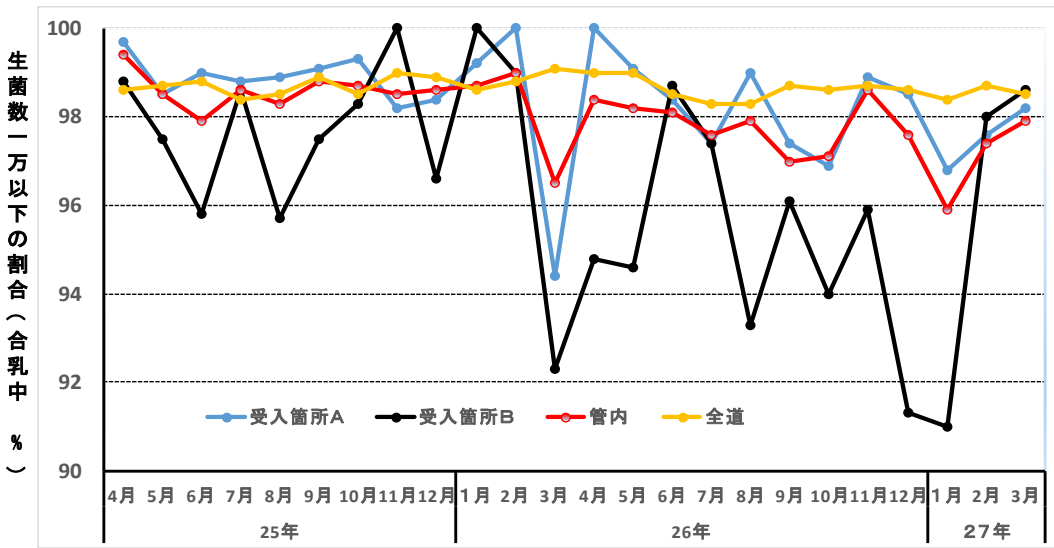
るか確認しましょう。

(4) 洗剤と殺菌剤の使い方

搾乳機器に使用する洗剤

は、アルカリ洗剤、酸性洗剤の二種類です。これらの洗剤は、搾乳機器に付着した生乳中の有機物や無機物の汚れを除くために使用されます。また、殺菌剤は、汚れを除く効果は無く、生菌を殺す目的で使用します(表1)。

洗剤と殺菌剤は、正しく使用されないとその効力や使用目的を発揮することが出来ません(表2)。



(データ提供: 北海道酪農検定検査協会 釧路事業所)

図1 生菌数1万/mℓ以下割合の月別推移



写真 ミルククローに付着した汚れ

表2 洗剤と殺菌剤の使用留意点

洗 浄	使用濃度	メーカー規定通り → 洗剤の減り具合は?
	洗浄温度	洗浄開始時の湯温70℃程度 排水時の湯温40℃程度
	洗浄時間	10分~15分程度
	洗浄水量	メーカー指定通り → 洗浄水バットへの洗浄水 吐出量が少なくないか?
殺 菌	規定濃度で 湯温は40℃程度	

表1 酪農洗剤・殺菌剤の使用目的

洗 剤	アルカリ洗剤	脂肪・タンパク質など 有機物由来の汚れを 取る
	酸性洗剤	カルシウムなど 無機物由来の 汚れを取る
	殺菌剤	細菌(微生物)を殺す

また、酸性洗剤とアルカリ洗剤、殺菌剤との混用は非常に危険です。正しい洗浄・殺菌を行うことにより、生菌の増殖を防ぎましょう。